

# Hem21 NEWS

公益財団法人  
ひょうご震災記念21世紀研究機構  
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である  
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **29** 平成23年  
(2011) 9月

## CONTENTS

- 1~2 第12回アジア太平洋フォーラム・淡路会議「国際シンポジウム」を開催
- 3 見過ごされる逆進性
- 4 自治体災害対策全国会議を開催
- 5 情報ひろば
- 6~8 人と防災未来センター  
MiRAi

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

8月5日、「21世紀再生戦略—安全・安心にして活力ある日本社会の実現に向けて—」をテーマに、第12回アジア太平洋フォーラム・淡路会議「国際シンポジウム」が淡路夢舞台国際会議場で開催されました。片山裕・神戸大学大学院教授をコーディネーターに3人の講師が記念講演を行い、254人の参加者がありました。



### ■記念講演 「大災害からの創造的復興」

貝原 俊民  
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長



わが国が近代国家として歩み始めたところからの約100年の間に、関東大震災、阪神・淡路大震災、そして東日本大震災の3つの大震災に見舞われた。日本の近代化の中での大きな転換期に、それぞれ発生している。従って、震災復興に当たっては、単に震災前の状態に戻す「復旧」ではなく、新しい時代に合った社会構造を創造する「復興」を目指すべきは当然である。

日本は1868年の明治維新から急ピッチで近代化を進め、20世紀初頭における日露戦争の勝利、不平等条約改定等により、独立した国家として国際的に認知されようとしていた1923年に関東大震災が発生した。この時、政府は、東京をヨーロッパ先進国並みの首都とするため「帝都復興計画」

## 第12回アジア太平洋フォーラム・淡路会議 「国際シンポジウム」を開催

を推進したが、脆弱な政治体制下で大幅に縮小され所期の目的は十分には達成されなかった。

次に、阪神・淡路大震災である。日本は第2次世界大戦後に驚異的な高度経済成長を達成し、1985年にはプラザ合意、G5参加等を通じて、自他共に認める経済先進国の一員となった。それから経済先進国として新しい国の型をつくることに展望が開けないうまバブル期に突入し、それが崩壊するところとなった。阪神・淡路大震災はその真ただ中に発生した。政府は、1日も早くその機能を回復するため復旧に全力を挙げた。その中で高齢化が進む経済先進国日本を先導するモデルとして創造的復興を目指すべきであったが、政府にはそのような発想はなく日本は依然として「失われた20年」の中にある。

東日本大震災は大地震の上に津波、原発事故も加わった複合災害である。従って、元の機能を回復するためには、「改良復旧」をしなければならない。この改良復旧だけでも、莫大な費用と時間、なにより被災者の厳しい忍耐が必要となるであろう。

いま日本は、国内的には人口減少期に入って長寿社会の活性化が大きな課題であり、国際的には食料、エネルギー、資源さらには地球環境問題などに直面している。成熟した国としての新しい型を構築すべき時である。復興の理念としては、「未来志向の創造的な取組」（「東日本大震災復興構想会議総理大臣諮問理由」より）でなければならない。困難な改良復旧を乗り越えて、日本再生の先導的モデルとしての創造的復興に成功するため、人口が減少し高齢者が増えても地域の活力を維持する「活力ある長寿社会モデル」、資源を生かし付加価値の高い産業を振興する「成熟国型産業モデル」、豊かな自然を生かした食料自給や太陽光・地熱発電等の促進を図る「エネルギー食料自給モデル」、広域災害に対応し相互の連携を促進する「ネットワーク型国土構造モデル」等の未来志向モデルを考えていかねばならない。

## ■記念講演

### 「新しい福祉社会実現へ向けての日本の戦略」

藤井 威

(佛敎大学社会福祉学部 特任教授  
元駐スウェーデン・ラトヴィア特命全権大使)



スウェーデンは漸進的増収措置により、20年余というゆとりのある期間をかけて、ビジョンの実現に向かった。その過程で、政治的にも穏健な話し合い路線を堅持し、建設的な対話と試行錯誤を重ねた。また、1960年初頭の国民経済全体が若く、活力ある状況の下で戦略を開始し、常に財政規律の堅持に意を用いて公債や借入金依存を徹底して排除し、国民に高い負担を求める以上、歳出政策面において、政策目的にかなう最適な支出の合理的な組み合わせを徹底的に志向した。例えば家族政策において、女性の家庭からの解放という政策目的の下で、就業と子育ての両立に思い切った重点を置くなど、いわゆる「賢明な支出—wise spending—」に努めたことが高福祉国家として成功した背景といえる。

## ■記念講演

### 「21世紀の医療は統合医療」

渥美 和彦

(日本統合医療学会 理事長／東京大学 名誉教授)



現代社会は、不安定、不透明、不確実というカオスの状態にあるといえる。  
キリスト教とイスラム教の宗教対立、アフリカ民族運動、中国・インドの経済成長、東日本大震災など、その特徴を端的に表しているといえる。いふなれば、これらは、現代において、古い体制から新しい秩序へと、大きな変革が急速に進められていることを意味している。これを俯瞰的に見ると、現代は、「東西文明が衝突し、新しい文明の創造」が行われる黎明期にあるといえる。これらを医学の観点に立つと、近代西洋医学からの脱皮ということである。

科学に基盤を置く西洋医学が、その成長の頂点に達したがために、幾つかの問題点が明らかになり、新しい医学への展開が望まれている。最近の医学分野における二つの画期的進歩、すなわち遺伝子科学と再生医学の発展は、従来の医療の在り方を根本的に変

えたこととなった。そして、治療の医学から予防あるいは健康の医学への転換、さらに個別化医療、全人的医療、包括的医療が求められるようになった。

こうしたスウェーデンの福祉体系は日本の福祉国家戦略を考える上で大いに参考にはなるが、制度全体の導入を図ることは、もちろんできないし適当でもない。しかし、ものの考え方は導入せざるを得ない。まず、負担増→福祉サービス水準向上→受益感覚という過程を踏まえつつ、国民との対話、与野党との対話を通じて、適切なビジョンの形成に努めるべきである。

そして膨大な財政赤字と、累積債務を抱える公共部門の危機的状況に鑑み、できる限り早期に、ビジョン付き増収措置を開始する必要がある。その際、スウェーデンの例をさらに超え、財政赤字の縮小、福祉制度の機能不全の是正と福祉水準の段階的向上に加え、未曾有の大災害からの再生を四方にらみで実施するという困難な過程を選択せざるを得ず、わが国に許される期間的余裕はなく、より短い期間内でより急速な漸進措置が避けられず、常にwise spendingを目指し、公債や借入金への依存を徹底して排除しなければならない。

このような困難極まる戦略を成功させるためのもう一つの条件として、政府の持つ「新成長戦略」の確実な実施の確保が必須であろう。福祉国家戦略と新成長戦略の同時遂行が求められる。これがわが国の共生社会への移行の一つの大きな道筋と考える。

このような困難極まる戦略を成功させるためのもう一つの条件として、政府の持つ「新成長戦略」の確実な実施の確保が必須であろう。福祉国家戦略と新成長戦略の同時遂行が求められる。これがわが国の共生社会への移行の一つの大きな道筋と考える。

このように考えると、「統合医療」は、まさに東西文明の弁証法的展開の結果の一つに他ならない。さらに、この度の東日本大震災は、人間の価値観に大きな変革をもたらすこととなった。一つは、自然の力は強大であり、「人間は自然と共生しなければならない」という認識である。二つは、「世界の資源は有限」であり、人間活動の肥大化による現代のライフスタイルに反省をもたらした。今後、人類が持続的発展をもたらすためには、次のようなことを考える必要がある。

- 1) エネルギーを浪費しない「エコ医療」の確立  
—統合医療の展開—
- 2) エコライフスタイルへの転換  
—エコ・テクノロジーの展開—
- 3) 世界的資源の有効配分 —国際的応用システム研究所 (IIASA) に代わる「アジア・シミュレーションモデル予測研究所」の設立—

# 見過ごされる逆進性



主任研究員 武内智彦

とある検索サイトに「逆進性」と打ち込む。すると検索ワードの候補に「消費税 逆進性」が表示される。あるいは「消費税」と打ち込んだ後に「g」を付け加えるとやはり「消費税 逆進性」が候補として出現する。一方、「国民年金保険料」と打ち込んでも候補に「逆進性」が絡むことはない。「g」を付け加えても、やはり、「逆進性」は出現しない。

この結果は国民年金保険料に逆進性が存在しないことを意味しない。しかし、その逆進性に人々の関心が集まっていないことを意味している可能性はある。

ここで数値例を持ち出して考えてみよう。年間に(A)105万円の所得がある家計と(B)525万円の所得がある家計の二つを考える。単純化のために消費税以外の税金はないと仮定する。所得は消費のためにあるので、両家計とも限度いっぱい消費すると考えてよいだろう。さて(A)の家計の行動はどうなるか。100万円消費して5万円消費税として支払うことになる。同様に考えれば(B)の家計が500万円消費して25万円消費税を支払うことがわかる。所得に占める税(ここでは消費税)の割合を比較してみよう。この値が低所得者ほど高い場合、その税に逆進性があるという。家計(A)および(B)についてはどうか。それぞれ5/105、25/525となり、この二つの値は等しい。この話のポイントは所得のすべてが消費に回っていること、両家計で消費税率は等しいことにある。

待て待て、所得のすべてが消費に回るってそんなわけあるか、との声が聞こえてきそうである。税金を除いても、我々の所得すべてが消費されているわけではない。貯蓄を無視するのはダメだろう。よって先の数値例のストーリーを改変する。(A)の家計の行動はそのままに、(B)の家計は100万円のみ消費に使って5万円を消費税として支払い、残り420万円を貯蓄したと考えよう。さて所得に占める税の割合を計算すると(A)の家計が5/105、(B)の家計が5/525となる。おお、これこそ我々が見慣れている「消費税の逆進性」ではないか!

しかし、今度はこちらから待ったの声をかけたい。420万円の貯蓄の行く末はどうなっているんだ、と。棺桶に現金を詰めるのが夢でない限り、貯蓄はいずれ将来に消費される。考察を深めるために、先のストーリーにさらに改変を加えよう。ここで貯蓄の資産収益率は無視する

(ゼロとする)。家計は若年期と高齢期の2期間生きる。家計(A)は若年期、高齢期共に105万円の所得があり、両期とも100万円消費し5万円の消費税を払う。家計(B)は若年期に525万円の所得があり、100万円消費し5万円の消費税を払う。高齢期には21万円の所得があり、若年期の貯蓄と合わせて420万円消費し21万円消費税を支払う。高齢期だけを取り出してみれば家計(B)は所得と等しい消費税を支払っている。しかしそれが問題視すべきことでないのは説明不要であろう。両家計とも若年期・高齢期を通じてみれば総所得に占める消費税の割合は等しい。

もちろんこれは単純化された例であり、これで消費税に逆進性は存在しないと言い切ることはできない。しかし、若年期・高齢期といったライフサイクルの視点を取り入れてみれば逆進性が緩和されることはご理解いただけるのではないだろうか。

さて、同じことを国民年金保険料について考えてみよう。ここで保険料の免除制度は無視する。現状の免除制度は単身世帯で年収57万円未満が全額免除の対象という利用が著しく制限された制度だから無視しても差し支えない。毎年の支払いは収入に関係なく14660×12でほぼ18万円である。両家計とも構成員が一人で共に国民年金にカバーされている場合、所得に占める国民年金保険料の割合はそれぞれ18/105、18/525となり、低所得家計のほうがこの数値は高い。この傾向はライフサイクルの視点を取り入れても変わることはない。ポイントは国民年金保険料が基本的に所得に関わらず定額であることにある。

上記のように免除制度の対象は限られている。社会保障庁の目安からすると単身世帯で年収が190万円の場合、一部免除すら適用されず年に18万円の保険料を納付する必要がある。これは収入のほぼ1割である。かなり重い負担で、払えなくなる可能性は無視できない。

国民年金の保険料の納付ができなかったり、あるいは意図的に怠った場合の行く末は低年金・無年金の高齢生活である。生活保護が明るい老後をもたらしてくれることは期待できないだろう。非正規雇用割合の高まる現状、国民年金加入者は増え続けると考えられる。老後の安心のためには国民年金保険料の逆進性を緩和することが喫緊の課題である。

# 自治体災害対策全国会議を開催

地震等による大災害が多発する中、東日本大震災はその広域性、津波災害、原発事故といった従来の災害とは異なる様相を呈しており、復旧・復興にあたっては主体となる自治体にさまざまな課題を突き付けています。

このため、東日本大震災から約6カ月が経過した9月8日、9日の2日間、現地で奮闘する被災自治体トップ等を招いて、全国の自治体幹部・職員がこの大地震からの貴重な教訓と復旧・復興への取り組みを共有しつつ、被災地への支援策や今後予想される巨大災害等への備えについて考える「自治体災害対策全国会議」を神戸市内で開催し、自治体幹部ら約360人が参加しました。

冒頭、東日本大震災並びにこのたびの台風12号で犠牲となられた方々に対して黙とうを行った後、主催者である実行委員会を代表して井戸敏三委員長、また、呼びかけ人を代表して貝原俊民ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長から開会のあいさつがありました。

続いて、当機構副理事長兼研究調査本部長であり、東日本大震災復興構想会議議長である五百旗頭真氏が総合司会を務め、まず、村井嘉浩宮城県知事から「広域災害対

策」について、佐藤仁南三陸町長から「津波災害対策」について、そして、室崎益輝関西学院大学教授と井戸敏三関西広域連合長・兵庫県知事から「広域災害支援対策」について、基調講演をいただいた後、質疑応答や鼎談等を通じて活発な意見交換が行われました。

2日目は、当機構副理事長兼人と防災未来センター長であり、東日本大震災復興構想会議委員である河田恵昭氏が総合司会を務め、大島賢三JICA副理事長から「国際緊急支援」について、岡本全勝東日本大震災復興対策本部事務局次長から「政府復興対策」について、そして、松本友作福島県副知事と立谷秀清相馬市長から「福島県の取り組み」について、基調講演をいただいた後、質疑応答や鼎談等を通じて議論が深められ、最後に、御厨貴東京大学教授・東日本大震災復興構想会議議長代理から「復興—希望のあかり」についてご講演をいただき、閉会となりました。



## HAT神戸 掲示板

### 兵庫県立美術館

#### 榎忠展—美術館を野生化する—

神戸を拠点に活躍する榎忠氏(1944年～)は、銃や大砲といった、現代社会における刺激的なモチーフやテーマを扱ったり、今日多量に生み出される金属の廃材に新しい生命を吹き込んだりと、ユニークな活動を行ってきました。新旧の作品群によってその独特の美学を大公開します。

- 会期=10月12日(水)～11月27日(日)
- 観覧料=一般 1,200(1,000)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上 600(500)円、中学生以下無料 ※( )内は20名以上の団体割引料金
- ※コレクション展の観覧には別途観覧料が必要(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)
- 休館日=神戸ビエンナーレ開催中につき無休
- なお、同時開催中の神戸ビエンナーレ2011の内容は下記の通りです。



榎忠 (RPM-1200)  
2006-09年 撮影:金子治夫

#### 神戸ビエンナーレ2011

##### 招待作家展「REFLEXIONEN ひかりいろ かたち」

- 会期=10月1日(土)～11月23日(水・祝)
- 日本・ドイツ交流150年を記念し、1950年代から60年代に活動を始めた両国の前衛美術の気鋭「具体美術協会」と「ZERO」の作家に注目するとともに、それぞれの次世代として活躍する作家を紹介します。また、若手作家を紹介する「注目作家紹介プログラム チャンネル2」を同時開催。(別途神戸ビエンナーレチケットが必要)

◎開館時間=10時～18時(榎忠展については金曜・土曜は20時まで)  
※入場は閉館の30分前まで  
TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

### JICA兵庫

#### ◆JICA兵庫映画鑑賞会(第18回)「Is this life? ～インドの女の子たちの現実～」

インドの子供たちが作成した短編映像より、女の子の過酷な現状を伝える5作品集。テーマは、女の子の教育、ダウリー(結婚持参金)、家庭内暴力、性的搾取など。上映後は、(公財)プラン・ジャパンから講師を迎え、同国の概況や女の子の状況、映像が作られた背景などをお話しします。



- 日時=10月29日(土)13時から14時50分まで
- 参加費=無料 ※事前申し込み必要

#### ◆JICAプラザ兵庫(広報展示室)「JICA volunteer art works in the world」

「神戸ビエンナーレ2011」の協賛事業として、JICAプラザ兵庫(広報展示室)では、芸術分野で活躍する青年海外協力隊の作品や写真を展示します。

- 日程=10月1日(土)から12月25日(日)までの毎日
- 時間=11時から18時まで(無休/入場無料)

#### ◆JICAプラザ兵庫(食堂)のご案内

JICA兵庫1階の食堂(カフェテリア方式)は、研修員用の食堂ですが、どなたでも利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子を6脚用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理(飲物付¥700)、10月はウガンダ料理、11月はモロッコ料理です。ぜひ、お越しください!  
メニューの詳細と写真については、こちら→ <http://www.jica.go.jp/hyogo/office/restaurant/index.html>  
■営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで  
※各終了30分前ラストオーダー



写真は8月エクアドル料理

#### ◆JICA兵庫映画鑑賞会(第19回)「おじさんと草原の小学校」

アフリカ大陸にあるケニア共和国。独立から39年目の2003年に開始した政府の初等教育無償化を受け、悲願だった小学校の入学を果たした84歳の小学生、キマニルゲさんの真実の物語「おじさんと草原の小学校」を上映します。皆さま、ふるってご参加ください!



2010年/イギリス/103分  
監督:ジャスティン・チャドワック  
出演:ナオミ・リス、オリヴァー・リトドほか

- 日時=11月19日(土)14時から16時まで
- 参加費=無料 ※事前申し込み必要

#### ◎申し込み・問い合わせ

JICA兵庫(独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター)  
TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0342  
Eメール [jicahic-event@jica.go.jp](mailto:jicahic-event@jica.go.jp) <http://www.jica.go.jp/hyogo/>

### 日本赤十字社

#### 活動資金ご支援のお願い

日本赤十字社は東日本大震災の発生直後、被災地へ医療救護班の派遣や救護物資をお届けするなど様々な救護活動を展開し、被災者の皆さまの支援に努めました。このような活動を支えているのは、日ごろ皆さまからお寄せいただく「活動資金」です。今後とも赤十字の活動をご理解いただくとともに、引き続き赤十字の活動資金へのご協力をお願いいたします。

#### ◎活動資金に関するお問合せ

日本赤十字社兵庫支部 振興課  
お電話から TEL 078-241-8921  
パソコンから



学術交流センター

平成23年度

兵庫自治学会研究発表大会のご案内

兵庫自治学会では、平成23年度の研究発表大会を以下のとおり開催します。ぜひ積極的にご参加ください！（参加無料）

※参加申込書(チラシ)は<http://hapsa.net/>よりダウンロードいただけます。

▶日時=10月22日(土)10時~17時55分

▶場所=兵庫県立大学・神戸学園都市キャンパス(神戸市西区学園西町8-2-1)

※神戸市営地下鉄「学園都市」駅下車徒歩約10分

▶プログラム

・大会テーマ「新しい地方自治に向けて」～東日本大震災復興支援から見てきた「新しい公」及び行政の広域連携について～



未曾有の広域災害となった東日本大震災を契機として、地域を越えた行政、NPO、住民のさまざまな支援や関西広域連合による支援など、全国的に新しい取り組みが活発化している。そこで、東海・東南海・南海地震といった広域巨大災害への対応も視野に入れつつ、よりよき地域社会を創造するために、多様な主体による新しいパートナーシップの視点からこれからの新しい地方自治に向けた課題と展望を探る。

・総会(10時~10時35分)

・全体会(基調提案・パネルディスカッション)(10時45分~12時30分)  
テーマ:東日本大震災復興支援から見てきた「新しい公」及び行政の広域連携について

基調提案講師:室崎益輝(関西学院大学総合政策学部教授・災害復興制度研究所所長、ひょうごボランティアプラザ所長)

パネリスト:室崎益輝(同上)

辻中 豊(筑波大学副学長(国際担当)・人文社会科学部研究科教授)

中塚則男(関西広域連合本部事務局長(兵庫県参事))

コーディネーター:兵庫自治学会代表運営委員 山下 淳(関西学院大学法学部教授)

・分科会(13時20分~16時55分)

第1分科会(防災・安全安心~住民の安全安心なくらしのため~)

第2分科会(環境・農業~新技術による持続可能な環境づくり~)

第3分科会(地域づくり~個性を生かした都市、中山間地域の活性化~)

第4分科会(協働~住民と行政、様々な連携のあり方~)

第5分科会(教育・福祉~ユニバーサル社会の実現をめざして~)

兵庫自治学会とは、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。自らの視野を広げるため、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか。

■会員になるには

年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。

兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人(会員数 約1,000名)

●申し込み・問い合わせ

兵庫自治学会事務局

((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 学術交流センター内)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

人と防災未来センター東館6階

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122 Eメール gakujuetsu@dri.ne.jp

<http://hapsa.net/> (←入会フォームはこちら)

21世紀文明研究セミナー2011受講者募集

私たちの生きる21世紀文明社会には、貧困や災害、環境変化、健康被害等さまざまな課題があり、これらを乗り越えて人類が平和に生活するための技術「平和の技術」の創造が求められています。このセミナーでは、HAT神戸等の国際研究機関による知的ネットワークを活用し、課題解決に向けた方策を探索します。

▶日時=10月~平成24年3月の水曜または金曜の13時30分~15時(90分)

▶場所=人と防災未来センター(東館)、兵庫県立美術館(共にHAT神戸)

▶内容=①安全安心(安全安心・国際貢献)②共生社会(長寿国にっぽん活性化)③防災(南海・東南海地震を踏まえた広域災害の対応)④環境(循環型社会)⑤芸術(美術館をもっと知ろう!)の全5分野30講座

※プレゼンテーション+ディスカッション形式で実施

▶定員=各講座30人程度(先着順。1講座から受講申し込み可能)

▶対象=研究者、行政・企業・NPO関係者、大学・大学院生、一般県民等

▶受講料=無料

▶申し込み方法

(1)FAXまたは郵送(リーフレット受講申込書(※)をご使用ください)

※下記URLからダウンロードできません

(2)E-mail(件名を「文明研究セミナー申し込み」とし、①希望講座の月

日・テーマ名②氏名③性別④年齢⑤連絡先(住所・電話・Eメール)

⑥ご所属名⑦ご職業を明記してください。

●問い合わせ先

学術交流センター交流推進課

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122 Eメール gakujuetsu@dri.ne.jp

[http://www.hemri21.jp/exchange\\_center/index.html](http://www.hemri21.jp/exchange_center/index.html)

兵庫県こころのケアセンター

「こころのケア」シンポジウム参加者募集

兵庫県こころのケアセンターの研究報告と、「東日本大震災におけるこころのケア—復興期の現状と課題—」をテーマとするパネルディスカッションを行います。

▶日時=11月17日(木)13時30分~16時30分

▶場所=兵庫県こころのケアセンター

▶プログラム

第1部 研究報告 —主任研究員による研究報告—

第2部 パネルディスカッション「東日本大震災におけるこころのケア—復興期の現状と課題—」

▶定員=200人

▶参加費=無料

▶申し込み方法=所定の参加申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送またはFAXで下記へ。先着順で受け付け、定員になり次第、締め切ります。※兵庫県こころのケアセンターのホームページからプリントアウトできます

●申し込み・問い合わせ

兵庫県こころのケアセンター研修情報課

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017

<http://www.j-hit.org/>

言葉を伝える

私に伝えた  
誰かのように

あなたの本を  
書いて  
みませんか?

小説、自伝、詩集などあなたがお書きになった原稿をご予算に応じた自費出版プランでご提案いたします。また、各企業の記念誌等の企画・プロデュースもいたしております。どうぞお気軽にご相談ください。

ISO14001

社内の印刷センターはISO14001の認証を取得しています。新聞印刷及び各種商業印刷



株式会社 神戸新聞総合印刷

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7

印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。

☎078-362-7180

<http://www.kobepn-printing.co.jp/>

企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷  
出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業

# 夏休み防災未来学校2011 レポート

センターでは、夏休み期間中に、子どもから大人まで楽しみながら、防災・減災について学ぶことができる各種参加型プログラムを用意し、災害のこと、防災・減災のことを家族や友達と一緒に考えるイベントを行いました。

## 子ども減災講談「稲むらの火」



講師の太平洋さんが「稲むらの火」をテーマにしたオリジナルの講談で、津波の防災・減災の学びを伝えてくれました。

見に来た子どもと一緒に津波の擬音語を決めて即興で取り入れるなど、子どもたちの興味を引き付けました。

## 減災女子力UP講座



災害時の避難所には女性特有の悩みや問題があります。それらの問題を克服し、避難所でも女性らしさを失わない秘訣を身に付けるための講座を開催しました。

ちょっとしたアイデアで問題を解消できることを知り、有意義だったとの感想を頂きました。

## ペットボトル地震計をつくらう!



京都大学の「満点計画プロジェクト」の本物の地震計で仕組みを学んで、2リットルのペットボトルの中に振り子を入れる手作りの地震計を作りました。

この地震計は、記録紙に揺れを記録できるなかなかの優れたものです。

## 津波の実験 サイエンスワークショップ



津波と普通の風による波の違いや、地形による津波の変化、堤防の効果などをミニチュア模型を使って実験しました。

模型で発生した津波が町を襲う様子に、子どもたちは食い入るように見入っていました。

## 工作ショートプログラム



いざというときに役にたてるよう覚えておきたい知識や技術をテーマに、誰でも簡単に作れる楽しい工作プログラムを実施しました。

ロープの結び方を学びながらブレスレットを作ったり、折り紙で災害の断水時に役立つプチパト紙皿を作ったりしました。

## 足元を守る ソックス・シューズつくろう!



いざというときに走って逃げるのできる履物を作るプログラムです。古いソックスから靴を作りました。履物作りの工作は毎年人気で、今年も毎回満員御礼となりました。

子どもたちは完成したシューズをさっそく履いてみたりして楽しみました。

## おためし! 防災グッズ



日頃なじみの薄い防災用品に触れてもらい、家庭での備えにつなげていただくコーナーです。非常用の懐中電灯やサバイバルブランケットを実際に使ってみることができ、子どもたちは興味津々でブランケットをまもったりしていました。

## シンサイミライノハナを咲かせよう!



(特非)コトハナさんの協力で、東日本震災の被災地へ、黄色い花びら形のメッセージカードを届けました。

皆思い思いのメッセージを黄色い花に込めていました。

## おどろき! 発見! クールサマー



今夏は“節電”がテーマとなっています。“電気を使わずに涼しく過ごすか”についていろいろなノウハウを試す体験コーナーが設けられ、使い方のセミナーも実施しました。初回のセミナーはアテンダントが浴衣で登場。納涼感あふれるひとときとなりました。

## 節電サマーの応援大使 ペンギンちゃん来館



クール・サマーの親善大使として、本物のペンギンが神戸花鳥園から応援にやって来てくれました。

ペンギンはビニールプールより広いセンター西館の水盤に入ろうとしてスタッフを驚かせるなど、来館者の皆様を和ませてくれました。



## はじめての絵手紙教室



へたでいい、へたがいい、の絵手紙を描いてみる、毎年恒例の絵手紙教室ですが、今夏は東日本大震災で被災された方々へ想いを伝える絵手紙を作りました。

参加した子どもたちはモデルの花や小物を見ながら、心を込めて筆で絵手紙をしたためていました。



## 摂南大学 防災ビレッジ



摂南大学理工学部建築学科の学生さんの指導で、ストローで強度のある建築模型を作ることで、地震に強い建物の構造について学びました。

併せてストロー飛行機の作り方も伝授され、飛行機を飛ばすことに夢中の子もいました。



## 消防車来場



神戸中央消防署から本物の消防車がやってきました。子どもたちは消防服を着て消防車と記念撮影をしたりしました。

また、水消火器で消火器の使い方や、煙ブースで火災の煙から逃げる体験もできました。



## 防災楽習迷路に挑戦!



恒例の防災楽習迷路が今夏も実施されました。今回は被災して迷路になってしまった家で、家族やペットを助けるというストーリーで、被災直後は家族による救助が大切であることを学びました。

ここに紹介した以外にもさまざまなイベントが実施されました。一部は次ページでも取り上げています。

## こころのシアター特別上映

NHKグループ取材班が岩手・宮城で取材した映像をもとに編集した3D映像ドキュメンタリー「東日本大震災津波の傷跡」を東館1階こころのシアターで上映しました。



上映の一場面

この作品は好評につき、12月30日まで延長公開されることになりました。

また、東館3階では東日本大震災に関するパネル展示も始まり、被害の概要や復旧の様子、今後の備え等についてまとめたものを見ることができます。



パネル展示

## 防災教育センターがオープン

阪神・淡路大震災などの教訓を踏まえた防災教育の拠点として、兵庫県立大学の防災教育センターが東館4階にオープンしました。



開所式で挨拶する貝原理事長

河田センター長も特任教授として学生の指導に当たります。

8月17日には開所式が行われ、学生ら約120人が出席しました。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

## 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

**開館時間** 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)  
 ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)  
 ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

### 入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※( )は20人以上の団体料金  
 ※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

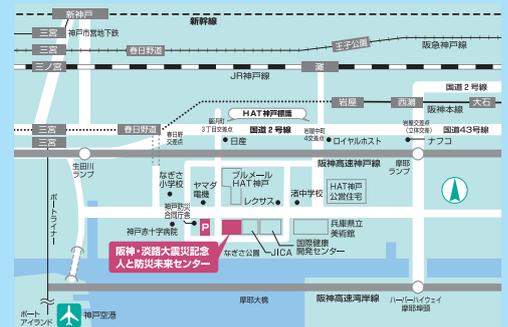
### 休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日  
 ※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休  
 ※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

### 交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
  - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
  - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
  - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
  - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



## ひとぼうユース・ミーティング2011 Summer を実施しました



震災の概要やセンターの取り組みを説明する佐伯研究員

7月16日、17日の2日間、「ボランティアに行こう!東日本とともに、今・ミライ。」をテーマに、ひとぼうユース・ミーティングを実施しました。

夏休みを利用して東日本大震災の被災地にボランティアに行こうとする時の行動の指針を得ていただくためのもので、若者を中心に幅広い年齢層の方々に参加されました。

初日は関西からの被災地支援、これまでとこれから、2日目は学生・ユースが主体の活動でできることをテーマに、事例報告等の後に輪になって座っての意見交換会を行い、活発な議論が交わされました。

### ▶資料室夏季企画展「兵庫と水害」開催中

西館5階資料室(無料スペース)

今回の企画展では、兵庫県内の風水害の歴史を取り上げ、1938年の阪神大水害や戦後の度重なる風水害を中心に、当時の写真や手紙、水害を記述した小説や漫画などを展示しています。

ぜひお誘い合わせの上、ご来室ください。



### ▶人と防災未来センター資料室夏休み企画 水濡れ資料応急処置ワークショップを開催しました

7月30日、西館1階ガイダンスルームにて、資料室夏季企画展「兵庫と水害」の関連企画として、水濡れ資料応急処置ワークショップを開催しました。

東日本大震災の被災地では、津波などによって水損・汚損した資料の救出活動が続けられています。

私たちが大切にしている写真や書類が、災害などで水や泥で汚れたり、破損したりすることはいつ起こるとも分かりません。また、そうしたことは日常生活の中でもふとしたことで起こり得ることです。紙や写真は水に濡れてしまうと、もう駄目だと諦められてしまいがちですが、キッチンペーパーなど身近なものを使って十分応急処置が可能です。

当日は、歴史資料ネットワークから講師をお招きし、実演してもらうとともに、参加者に実際に体験してもらいました。市民の方々や子ども連れの家族、修復関係者や学芸員の方々など多くの方が参加し、興味深く応急処置法を体験しました。

また、同じ会場内で「東日本大震災・被災資料レスキュー写真展」を併せて開催し、被災地で日々懸命に続けられている被災資料の救出活動を写真パネルで展示しました。



東日本大震災・被災資料レスキュー写真展



水濡れ資料応急処置ワークショップの様子



子どもたちも興味深く体験しました

### インターンシップの学生も活躍しました。

センターでは夏休み期間中、神戸山手大学、神戸国際大学、神戸学院大学からインターンシップの学生さんを受け入れました。資料の収蔵庫での作業や、夏休みイベントのスタッフ業務の実習を行いました。

防災ゲームのイベントでは前年度に実習した先輩も応援に駆け付け、学生たちと共にスタッフとして参画。来館者たちはゲームで楽しみながら防災について学んでいました。



**Hem21 NEWS**  
vol.29

平成23年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)  
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部門  
TEL 078-262-5580  
FAX 078-262-5587

●研究調査本部  
TEL 078-262-5570  
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター  
TEL 078-262-5050  
FAX 078-262-5055

●学術交流センター  
TEL 078-262-5713  
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010  
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・感想を機構までお寄せください